

CITATION: Alfirevic Z, Stampalija T, Gyte GML. *Cochrane Database of Systematic Reviews* Cochrane Pregnancy and Childbirth Group, Issue 11. Art. No.: CD007529. DOI: 10.1002/14651858.CD007529.pub3  
CRG名: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group

## [最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 30 September 2013  
Clib issue No.; N/U: 2013 Issue 11; Update

## アブストラクト

**背景:** ドップラー超音波における胎児循環の血流パターン異常の検出は、胎児予後が不良になるおそれを示している。一方、ドップラー超音波の所見が偽陽性であった場合、不適切な早産を促すことになりかねない。

**目的:** 本レビューの目的は、ハイリスク妊娠で胎児の健康状態の評価に用いるドップラー超音波検査が、産科ケアおよび胎児アウトカムに与える影響を評価することであった。

**検索戦略:** Cochrane Pregnancy and Childbirth Group's Trials Registerでの検索を2013年9月30日に更新した。

**選択基準:** ハイリスク妊娠を対象に、臍血管および胎児血管の波形についてドップラー超音波検査を行った場合と、ドップラー超音波検査を行わなかった場合とを比較したランダム化または準ランダム化比較試験。

**データ収集と分析:** 2名のレビューアが、個別に研究の選択の是非およびバイアスリスクを評価し、データを抽出した。データの入力を確認した。

**主な結果:** 10,000例を超える妊婦を対象にした18件の完了済の研究を選択した。これらの試験の質は概ね不明で、出版バイアスがあった可能性を示すエビデンスもみられた。ハイリスク妊娠でドップラー超音波検査を行うと、周産期死亡が減少した[研究16件の胎児10,225例、1.2%対1.7%、リスク比(RR)0.71、95%信頼区間(CI)0.52~0.98; 治療必要数(NNT)=203、95%CI 103~4,352]。分娩誘発の実施(研究10件、妊婦5,633例、ランダム効果、平均RR 0.89、95%CI 0.80~0.99)、および帝王切開の施行(研究14件、妊婦7,918例、RR 0.90、95%CI 0.84~0.97)もより少なくなった。器械経膈分娩(研究4件、妊婦2,813例、RR 0.95、95%CI 0.80~1.14)、および5分時点のApgarスコア7点未満(研究7件、胎児6,321例、RR 0.92、95%CI 0.69~1.24)にも、差はみられなかった。

**レビューアの結論:** 現在得られているエビデンスでは、ハイリスク妊娠でドップラー超音波検査を行うと、周産期死亡リスクが低下し、産科的介入が少なくなることが示唆されている。これらの現時点でのエビデンスの質は高くないため、結果の解釈には注意を要する。神経発達に関する質の高い追跡研究が求められる。

## 平易な要約(Plain language summary)

### 合併症リスクの高い妊娠における胎児血管のドップラー超音波検査

高所得国では、ほとんどの胎児が子宮内で良好に成長しますが、その一方で母体には、糖尿病、高血圧、心臓障害や腎障害などの、胎児の成長に影響する疾患に罹患している場合があります。また、それらの疾患がなくても、完全にはわかっていない理由から、胎児が良好に成長しないこともあります。これらの成長不良の胎児では合併

Copyright(c) All rights reserved by Minds, Japan Council for Quality Health Care  
症リスクが高まり、死亡率や罹病率が高くなる場合があります。ドップラー超音波は、胎児循環中の血流パターン  
の変化を検出するもので、この変化によって胎児に生じている問題を見つけることができると考えられています。  
その後、早産などの介入を行うと、死亡率および罹病率を減少させることができると考えられます。しかし、ドップ  
ラー超音波検査を行うと帝王切開が増えるおそれがあるとも言えます。

(監訳 江藤 宏美)

翻訳公開日:2015年 1月 27日

**ご注意:**この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。